

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	1	計画書ページ	36ページ
事業名	福祉総合相談支援体制の整備		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	1 他分野・他機関連携体制の整備
担当課	福祉総務課ほか6課

1 事業概要

相談支援について、分野を横断した連携を強化し、包括的で総合的な相談支援が行えるような体制づくりを進めます。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

**【取り組み内容】**  
 相談支援業務を所管する関係各課で構成する福祉総合相談支援体制検討会議を開催した。また、重層的支援体制整備事業に関係する現行事業について整理を行った。他市の取り組み状況を調べた結果、佐賀市のみ令和3年度より重層的支援体制整備事業への移行準備事業に取り組むとのことであった。

**【成果】**  
 現行の相談窓口体制と業務内容について確認作業を行い、現行事業の内容や予算上の整理を行うことができた。

3 課題や今後の取り組み方針

**【課題】**  
 総合相談窓口のあり方として、国が示す重層的支援体制整備事業に取り組む必要があるか、引き続き検討する必要がある。福祉総合相談支援包括化推進員について、直接雇用か事業委託を行うか検討が必要である。

**【取り組み方針】**  
 令和4年度の市役所新庁舎の供用開始に合わせ、引き続き検討を行っていく。  
 令和3年度については、相談支援業務を行っている相談員を対象にヒアリングを行い、現行の相談支援体制における課題や改善点について情報共有を図る。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
福祉総合相談窓口の設置	目標	実施方法の検討	担当課協議	予算の確保	設置	実施	-	5	100%	完了（目標達成）	3.5	現行の相談窓口体制と業務内容、予算上の整理が出来たことから、順調に進んでいると考えているが、課題や改善点についての整理がまだ不十分であるため。
	実績	検討中	実施					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	75%	75%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
福祉相談支援包括化推進員の設置	目標	実施方法の検討	実施方法の検討	委託先の選定	設置	実施	-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	検討中	検討中					1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	25%	25%									

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	2	計画書ページ	38ページ
事業名	生活支援体制整備事業		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	2 地域医療・福祉の充実
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

介護や支援を必要とする高齢者などの需要に応じ、多様な機関を有機的に結び、必要な情報の共有化を進め、総合的で継続的に保健・福祉・介護サービスを提供する地域包括ケアシステム体制の推進のため、中学校区等（全27地区）ごとに地域協議体を設置し、生活支援コーディネーターを配置します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】	地域協議体の開催支援や高齢者アンケート調査の結果から、通いの場の充実や有償ボランティア、見守りマップ、災害時の避難マニュアルなど地域ごとに取り組む内容を検討し実施した。
【成果】	地域ごとに介護予防のための運動教室（100歳体操）や有償ボランティアなど支え合い活動が推進できた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】	地域での支え合い活動が継続的・安定的に実施できるしくみづくり コロナ禍での地域協議体の開催や支え合い活動の方法
【取り組み方針】	地域での支え合い活動が継続的・安定的に実施されるよう運営に関する支援を検討していく。 国や県、唐津市内の新型コロナウイルス感染状況を鑑み、事業実施は感染拡大防止策を講じて行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
地域協議体の設置（地区）	目標	27	27	27	27	27	地区	5	100%	完了（目標達成）	4.0	全地区で地域協議体の設置ができたが、地域により取り組み状況に温度差があり、支え合いの啓発が繰り返し必要。
	実績	25	27					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	93%	100%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
生活支援コーディネーター	目標	14	14	14	14	14	人	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	12	12					1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	86%	86%									

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域協議体の取り組みや活動を知ってもらい、可能な範囲で参加・協力をしてほしい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	3	計画書ページ	38ページ
事業名	在宅医療・介護連携推進事業		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	2 地域医療・福祉の充実
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

市が設置する「在宅医療・介護連携支援センター」において、医療・介護サービス関係者からの「在宅医療」に関する相談などに対応し、地域医療と介護の連携を推進します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 相談対応：「在宅医療・介護連携支援センター」月平均10件  
 会議開催：在宅医療・介護協議会ワーキンググループ委員会11回、訪問看護部会6回 情報共有：退院支援ルールアンケート実施  
 研修会の開催：多職種連携研修会（web）1回 参加者約400人 住民への普及啓発：いきかたノートの配布、唐津市長、玄海町長、医師会長の三者会談、番組作成・放送  
 【成果】  
 ワーキンググループ委員会での取り組みを通して顔の見える関係づくり、ネットワークづくりが出来た。  
 いきかたノートの配布時や説明会、いきかたノートの行政放送等を通して、在宅医療と介護連携について地域住民の理解を図った。R2年度説明会12回開催、参加者180人

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 コロナ禍の多職種研修会や地域住民への普及啓発の取り組み方法  
 【取り組み方針】  
 WEBや行政放送などを活用した研修、普及啓発  
 いきかたノートを活用した普及啓発

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
多職種研修会	目標	2	2	4	4	4	回
	実績	3	1				
	達成度	150%	50%				
ワーキンググループ委員会	目標	—	—	12	12	12	回
	実績		11				
	達成度	—	—				

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	多職種連携し、コロナ禍でできる取り組みをワーキンググループ委員会で協議しながら行った。今後も在宅医療・介護連携の現状や課題を整理しながら効果的に事業を進める必要がある。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

在宅医療・介護連携について関心を持ち、理解を深めてほしい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	4	計画書ページ	38ページ
事業名	離島診療所の医師及び看護師確保		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	2 地域医療・福祉の充実
担当課	保健医療課

1 事業概要

医療施設に恵まれない離島住民の健康保持、医療・衛生の向上のため、市内5か所の離島診療所で従事する医師と看護師を確保します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
高島診療所の常駐医師確保を引き続き行ったが、常駐医師確保に至らなかった。昨今の医師不足など、辺地、離島等における医師が困難な中、遠隔診療を始めとした新たな診療体制について協議を行った。

【成果】  
高島診療所医師確保以外は達成。高島診療所については週2日診療を堅守

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
高島診療所において、令和元年度途中で健康上の理由に医師が退職したため、離島診療所医師等によるシフト制の医療体制に移行した。今後、どのような診療体制にするか協議が必要

【取り組み方針】  
医師不足による医師確保が厳しい中、従前どおり医師確保をし医療体制を構築するか否かを含め、今後の離島の診療体制について抜本的な方針を見直す必要がある。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
離島診療所の医師数 ⇒神集島 1人 馬渡島 1人 高島 1人 小川島 1人 加唐島 1人	目標	5	5	5	5	5	人	5	100%	完了（目標達成）	4.5	高島診療所において医師の欠員が生じており、引き続き関係団体等からの協力を得て、確保に努めていきたい。
	実績	4.8	4.7					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	96%	94%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
離島診療所の看護師数 ⇒神集島 2人 馬渡島 2人 高島 1人 小川島 1人 加唐島 1人	目標	7	7	7	7	7	人	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	7	7					1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	100%	100%									

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	5	計画書ページ	39ページ
事業名	小地域福祉活動推進事業補助金		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

小地域における福祉のリーダーとして市社会福祉協議会と地区（校区）社会福祉協議会が設置する「福祉員」の活動を支援します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
小地域における福祉のリーダーとして活動する福祉員の活動費に対し補助を実施した。また、福祉員の活動や必要性を周知するため、市報で活動内容を紹介するなど情報発信を行った。

【成果】  
新型コロナウイルス感染防止の工夫を行いながらサロン活動や体操教室を実施するなど、コロナ禍の中で、引きこもりがちな高齢者や不安を抱える地域の方などに対し福祉員がサポートを行うことで住民相互の助け合い活動や交流事業の推進に繋がった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
未だ福祉員を配置出来ていない地域があるため、全地域に最低1名は配置できるよう、福祉員の必要性等を周知していく必要がある。

【取り組み方針】  
福祉員の数を増やしていくことと同時に、資質を向上させるため福祉員向けの研修会等を実施する。また、旧郡部は福祉員制度を導入して日も浅いため、引き続き、地域の下支えとなれる福祉員の必要性等を伝え、制度の浸透を図る。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
福祉員の設置数	目標	891	891	おおむね50世帯に1人			人
	実績	857	858				
	達成度	96%	96%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	目標数に近いところまで、福祉員を設置することができ、順調に進んでいると言えるが、未だ配置出来ていない地域があるため。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	6	計画書ページ	40ページ
事業名	民生委員・児童委員の活動支援		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

地域における身近な相談窓口である「民生委員・児童委員」の活動を支援するとともに、地域の実情に応じた適切な定数を確保します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 民生委員・児童委員に求められる活動が多様多様となっていることもあり、委員の負担が増えている。それに伴い活動する際に個人に係る費用負担も増加していることもあったため、令和2年度から活動費や協議会に対し、市からの補助金を増額した。

【成果】  
 民生委員・児童委員の研修などの充実により、各委員の資質向上を図ることができた。また、活動を補助することにより、各委員の経済的負担を軽減し、円滑な委員活動に寄与した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 民生委員・児童委員に求められる活動が多様多様となっていることから、委員に対し適切な情報提供を行うなど、活動を支援していく必要がある。  
 新型コロナウイルス感染防止に配慮した民生委員活動を検討する。

【取り組み方針】  
 市への問い合わせにおいて窓口を一本化し、その窓口において事案に応じた対応を速やかに確認することができる体制を整える。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
民生委員定数	目標	336	336	336	一斉改選	定数見直し検討	人	5	100%	完了（目標達成）	4.0	コロナ禍においても、民生委員・児童委員ができる範囲での活動を行っており、順調に運営できている。
	実績	335	335					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	99%	99%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
研修会への参加	目標	112	112	112	112	112	人	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	125	125					1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	117%	117%									

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	7	計画書ページ	40ページ
事業名	既存公共施設の地域の見守り拠点化の検討		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	福祉総務課、生涯学習文化財課

1 事業概要

地域に存在する公民館などの既存公共施設を、地域の見守りの拠点とするための検討を進めます。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
市立公民館及び地区公民館において、地域住民の交流の場、見守りの場として、子ども食堂やいきいきサロン、100歳体操事業を展開・支援した。なお、市立公民館25館では、新型コロナウイルス感染防止のため、公民館を休館したり地域行事の中止があったが、感染対策を講じながら主催講座やサークル活動を行った。

【成果】  
地域住民に身近な公民館で、子ども食堂やいきいきサロン、100歳体操が開催されることで、地域住民の交流と見守り活動を実施することができた。公民館講座内容を見直し、新しい講座開催をしたことにより、地域住民の交流が広がった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの講座や行事開催となり、密にならないような新規講座や行事開催の計画をする必要がある。

【取り組み方針】  
多くの住民が参加する行事を開催し交流の場としていく。また積極的な参加を促すため広報を強化していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
地域の見守り拠点の設置	目標	検証	130	145	145	145	箇所
	実績	実施	141				
	達成度	50%	108%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.5	新型コロナウイルス感染対策を講じながら、講座や行事を実施・支援し、地域住民の交流の場としているが、見守り拠点としての意識付けが必要である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域行事へ積極的に参加する、または呼びかけを行うなど、住民同士の顔が見える関係づくりをお願いします。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	8	計画書ページ	40ページ
事業名	学校・家庭・地域社会の連携強化		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	学校教育課、学校支援課

1 事業概要

学校、家庭、地域社会が一体となって子どもたちを育む地域とともにある学校づくり（コミュニティスクールづくり）を推進します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
第一中学校校区の3校（第一中学校、長松小学校、大志小学校）において、コミュニティスクールが設置されており、中学校における面接指導や、小中学校における授業へのゲストティーチャーとしての活動を行った。各小中学校では、地域の方の協力を得て、農業体験や海洋学習を行ったり、地域の文化を学ぶ学習などを行った。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、中止せざるを得なかった活動等も多かった。

【成果】  
様々な学校行事や学習活動を家庭・地域の協力を得て行うことで、児童生徒の教育活動についての学校・家庭・地域における連携を強化した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
学校・家庭・地域との連携をする上で、コーディネートをする役割をする地域人材が必要である。新型コロナウイルス感染症の影響で外部人材の活用を取りやめたり行えない活動もあった。

【取り組み方針】  
第一中学校校区のコミュニティスクールの取り組みを支援する。全小中学校において、今後の学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちを育む地域とともにある学校づくりを推進する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
外部人材の活用	目標	10,000	12,732				人
	実績	12,732	6,679				
	達成度	127%	52%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	年間を通じて、各学校の教育活動における、家庭・地域への情報発信、協働した活動を積極的に行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、外部人材の活用が令和元年度の半分ほどになったため。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）



様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	9	計画書ページ	47ページ
事業名	唐津市保健福祉ガイドブック（仮称）の発行		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	4 情報提供の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

市が提供している保健・福祉分野の各種サービス等を網羅した、市民向けのガイドブックを発行します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
平成22年に発行した保健福祉ガイドブックと、令和2年1月に発行された唐津市くらしのガイドの掲載内容について、比較検討を行った。

【成果】  
保健福祉ガイドブックと唐津市くらしのガイドの掲載内容の重複や追加記載の必要性について検証することができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
唐津市くらしのガイドへの集約を検討する。

【取り組み方針】  
令和3年度は、ガイドブックの発行方針について決定したい。また、冊子形態以外の新しい情報提供手段についても検討を進める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
ガイドブックの発行	目標	掲載内容及び発行方法の検討			発行	—	—
	実績	検討中	検討中				
	達成度	75%	75%				
—	目標						—
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.5	唐津市くらしのガイドとの比較検討を行うことによって、保健福祉ガイドブックの発行の必要性について検証することができたため、順調に進んでいると評価した。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	保健医療課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 新任期保健師研修会6名・中堅期保健師研修会3名・市町村保健師管理者能力育成研修会・九州ブロック保健師等研修会・九州地区母子保健指導者研修会・日本公衆衛生看護学会はコロナのため中止等で受講が出来なかった。しかし、職場内研修の機会として保健事業連絡会は実施できた。

【成果】  
 研修を受けることにより、それぞれの年代で担っている保健師としての役割を学ぶことができ、また、専門的知識を学ぶことにより、相談従事専門職として力量形成を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 相談業務は様々なケースがあり、経験年数が少ない職員の育成が課題である。

【取り組み方針】  
 地区担当制及び業務担当制をとし、職員育成を推進していく。（共に訪問等の相談業務にあたることにより後輩職員が先輩職員から学ぶ場を作っていく）

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
職場外研修の受講	目標	6	6	6	6	6	回	5	100%	完了（目標達成）	3.0	コロナの影響で希望の研修に参加できなかったが、保健事業連絡会で他課の職員も含め情報共有・学習の場を確保することができた。
	実績	6	2					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	100%	33%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
職場内研修（保健事業連絡会）の実施	目標	12	12	12	12	12	回	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	11	10					1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	92%	83%									

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	子育て支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 家庭児童相談室では、10月に虐待防止に関する地域保健・福祉従事者との連携のための研修会及び連絡会、12月に佐賀県・市家庭児童相談員連絡協議会の2回出席。  
 母子・父子自立支援員は10月にDV関係期間相談員研修、12月に貸付金及び面会交流支援に関する研修に出席。

【成果】  
 相談援助技術について習得することができ、相談対応する際に実践できるようになった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 研修参加により相談員が不在する場合にも、係内、課内で対応できるよう職員の意識の醸成と育成が課題。

【取り組み方針】  
 県内、県外研修に関わらず、相談員がより多くの研修等に参加できるよう相談員の業務分担を見直す。また、計画的な研修受講の継続、受講後の他相談員や課内職員等への伝達講習、及び相談支援業務に関連性の深い市の事業について知識を深めることで、相談員だけでなく職場全体でスキルアップを目指していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
家庭児童相談員及び母子父子自立支援員に関する研修の受講	目標	4	4	4	4	4	回
	実績	4	4				
	達成度	100%	100%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	5.0	計画的に研修受講をおこない、相談支援業務に関連性の深い市の事業について知識を深めることで、相談員だけでなく職場全体でスキルアップを図ることができた。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 相談支援事業のスキル向上のための従事者研修企画・検討委員会に参加。相談支援従事者研修に向けた打合せに4回参加、研修会講師として3日間参加。支援学校の就学就労フォーラム、相談支援事務連絡協議会への参加。

【成果】  
 相談支援事業従事者研修企画・検討から関わり、講師として3日間務めることにより県内の相談支援発展のための役割を担うことができた。また、支援学校の就学就労フォーラム、相談支援事務連絡協議会への参加により相談員としての資質向上に努め、他機関との連携を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 障害者相談員の中心的な役割を担う相談員（スーパーバイザー）の育成。  
 自主的に相談に来られない地域の障がい者の方々の把握。コロナ禍における今後の相談者との関わり方の検討。

【取り組み方針】  
 主任相談支援専門員養成研修への積極的な参加。  
 地域の関係機関とできる範囲での連携を図り、相談支援センターから障がい者の相談支援に繋がる方法を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
研修等への参加	目標	12	12	12	12	12	回
	実績	10	11				
	達成度	83%	91%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	回数においては達成できていないが、現在のコロナ禍においては、できる範囲で積極的な参加ができたと考えている。今後も状況に合わせた対応を行ってきたい。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 認定調査員新任研修（佐賀県）1人、在宅医療・介護連携多職種研修会3人などの研修を受講した。例年実施されている認定調査員能力向上研修（厚労省）及び認定調査スキルアップ研修（民間）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、以前の研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深めた。

【成果】  
 各業務の専門性を高めることができた。利用者に寄り添った相談支援が可能となった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 専門的な相談支援を実施するため、経験年数が少ない職員の育成が課題

【取り組み方針】  
 業務分担を整理し、計画的に研修を受講することで職場全体のスキルアップを目指す。研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
研修受講回数 ※同一の研修の場合は、参加人数に関わらず1回とカウント	目標	—	5				—
	実績	—	2				
	達成度	—	40%				
—	目標						—
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、中止となった研修があった。回数目標の4割程度しか達成できていないため、自己評価3.0とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
各専門職が専門性を高めるため、国、県、関係団体等主催の研修（WEB研修を含む）を積極的に受講した。  
必要に応じて報告会や学習会を行う等課内で情報共有を行った。

【成果】  
各専門職のスキル向上につながった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
専門職の人材不足等により十分な相談支援体制ができていない。  
WEB研修の環境整備

【取り組み方針】  
人材確保、人材育成、相談支援体制の検討  
専門職の人材募集を引き続き行うとともに複数の職員で窓口相談対応ができるような課内の体制を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	各専門職のスキル向上を図っているが、人材不足等により相談支援体制が不十分である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	生活保護課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
生活困窮者自立相談支援事業従事者研修をはじめ、県、関係団体が開催する各研修会に参加した。

【成果】  
研修受講により相談員のスキルアップに繋がり、相談支援に対する意識の向上が図られたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、研修が中止になったりオンライン受講となるが多かったため、例年よりも受講回数が減少した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
生活困窮者に対応するため、各方面の機関と連携が必要であり、それに伴う知識が要求される。相談支援員各々の質の向上のためにも、積極的に研修等を受講することが理想であるが、新型コロナウイルス感染症の影響がある間は、研修会の開催自体が減少するため、受講機会が減少する。

【取り組み方針】  
研修会へは可能な限り参加できる体制を構築する。生活自立支援センター内の情報共有を行い、相談支援員のスキル向上に務める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
-	目標						-	5	100%	完了（目標達成）	3.0	研修会は受講することができてはいるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、通常業務も増加したうえに、研修会の開催自体が減少したため。
	実績							4	75%	順調に進んでいる		
	達成度							3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	11	計画書ページ	49ページ
事業名	民生委員・児童委員及び福祉員の研修活動への支援		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

市社会福祉協議会と連携し、民生委員・児童委員及び福祉員が行う研修活動への支援を行います。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
唐津市民生・児童委員連絡協議会の活動の強化及び協議会の円滑な運営のため、補助を実施した。

【成果】  
各地区協議会で研修会などを開催することで、民生委員・児童委員の資質向上を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
民生委員・児童委員と福祉員が連携した活動の支援。

【取り組み方針】  
唐津市民生・児童委員連絡協議会の運営を行っている市社会福祉協議会と福祉員を設置する地区社協と連携し、研修活動の支援を行ってきたい。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	民生委員・児童委員に補助を実施することで、研修などが充実され資質向上が図られている。福祉員においても他市町視察や福祉員研修への参加により資質の向上が図られているが、未だ地区ごとに活動差があるため、評価は3.0とする。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）



様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	12	計画書ページ	49ページ
事業名	福祉部門に配置する専門職の雇用		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	人事課

1 事業概要

福祉部門で主に相談支援業務に従事する専門職職員（例：社会福祉士）の雇用を検討します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
福祉部門で主に相談支援業務に従事する専門職職員として、社会福祉士の採用枠を設け、募集を行った。

【成果】  
令和2年度当初の社会福祉士5名に対し、社会福祉士1名の採用により1名増となり、令和3年度4月1日時点で社会福祉士6名となった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
平成30年度は、募集人数2名に対し15名の応募があったが、令和元年度は募集人数2名程度に対し4名の応募、令和2年度は募集人数若干名（1名程度）に対し5名の応募であり、受験者数の確保が課題となっている。

【取り組み方針】  
福祉部門における各担当課の現状を把握しながら、引き続き相談支援業務に従事する専門職職員の配置の必要性を検討し、募集を行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
新規採用職員専門職募集数	目標	3	2	実情に応じて検討			人
	実績	2	1				
	達成度	66%	50%				
※評価年度における目標値は、次年度の職員増減計画で募集を行った職種の所管部による計画人数	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	応募者が少なかったり、全体の採用者数を配慮する必要もあり、目標達成は難しいが、人員の増加を図ることはできた。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

## 第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	13	計画書ページ	51ページ
事業名	成年後見制度利用支援事業		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	6 権利擁護体制の整備
担当課	障がい者支援課

### 1 事業概要

認知症や障がいなどの理由で、判断能力が十分でない人の権利を守るため、成年後見制度の啓発並びに相談支援を推進します。  
また、親族がいない障がい者の成年後見申立てを市長が行うとともに、本人の資力等を考慮し、必要に応じて成年後見人等に対する報酬助成を行うことで、制度の利用を推進します。

### 2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

**【取り組み内容】**  
障がい者に関する関係機関からの相談を受け支援会議を開催し、市長申立て手続きを実施中。  
また、本人の資力等を考慮し後見人報酬の助成を行った。

**【成果】**  
成年後見等申立て件数 1件（継続中）  
報酬助成 3件

### 3 課題や今後の取り組み方針

**【課題】**  
障がい者支援課と地域包括支援課でそれぞれの窓口で相談を受けており、統一した相談機関がない。後見人の担い手の不足もあり、中核機関の設置による相談から選任までのマッチングが課題となっている。

**【取り組み方針】**  
中核機関の設置に向けた協議を継続して実施する。また、成年後見人の担い手不足の解消に向け、関係機関との連携を図る。

### 4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
申立件数（障がい者）	目標	1	3	3	3	3	件	5	100%	完了（目標達成）	3.0	市長申立てについては、関係機関からの相談により取り組む場合がほとんどであるため、件数にばらつきがある。 中核機関設置については今後も家庭裁判所等と協議を続けていく。
	実績	4	1					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	100%	33%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
成年後見人報酬助成件数（障がい者）	目標	3	4	2	2	2	件	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	1	3					1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	33%	75%									

### 5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

## 第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	13	計画書ページ	51ページ
事業名	成年後見制度利用支援事業		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	6 権利擁護体制の整備
担当課	地域包括支援課

### 1 事業概要

認知症や障がいなどの理由で、判断能力が十分でない人の権利を守るため、成年後見制度の啓発並びに相談支援を推進します。  
また、親族がいない高齢者等の成年後見申立てを市長が行うとともに、本人の資力等を考慮し、必要に応じて成年後見人等に対する報酬助成を行うことで、制度の利用を推進します。

### 2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

**【取り組み内容】**  
認知症高齢者等に対する成年後見、保佐、補助開始の審判について市長申立てを行った。  
後見人等への報酬の支払いに対する助成を行った。

**【成果】**  
認知症高齢者等に対する権利擁護支援を図ることができた。  
報酬助成により、安定した制度利用につなげることができた。

### 3 課題や今後の取り組み方針

**【課題】**  
高齢化が進み、成年後見制度の需要が増加することから、地域における権利擁護支援ネットワークの構築や成年後見制度利用促進のための中核機関の設置が必要。

**【取り組み方針】**  
地域における権利擁護支援ネットワークの構築や成年後見制度利用促進のための中核機関の設置などの方向性について検討する。また、後見人等の担い手（市民後見人など）についても関係機関と情報共有を進めていく。

### 4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
申立件数（高齢者等）	目標	4	4	8	9	10	件	5	100%	完了（目標達成）	5.0	申立てや後見人等への報酬助成の数値目標は達成したが、更に必要な方が潜在化していると考えられ今後も必要性が高まると考えられる。
	実績	4	8					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	100%	200%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
成年後見人報酬助成件数（高齢者等）	目標	4	4	6	7	8	件	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	7	6					1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	175%	150%									

### 5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

制度自体を知ってもらった後に、地域での見守りや声掛けを行っていただき、適切な機関へ繋いでほしい。

## 第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	14	計画書ページ	53ページ
事業名	避難行動要支援者名簿の活用と啓発		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	7 災害・緊急時の支援体制の充実
担当課	福祉総務課、危機管理防災課

### 1 事業概要

災害の発生またはその恐れがある場合に自ら避難することが困難な人の円滑かつ迅速な避難のため、特に支援を必要とする「災害時避難行動要支援者」を把握し、避難の支援を実施するために作成する名簿掲載情報のうち、随時更新ができない難病患者に関する情報について、佐賀県唐津保健福祉事務所と連携し、定期的に最新の情報に更新します。また、市民に対し避難行動要支援者名簿制度の周知を図るとともに、災害時における地域の助け合いのための取り組みを推進するために、「避難行動要支援者名簿」を活用したいと考えている地域の支援組織（自主防災組織など）に対する情報提供のため、名簿掲載者から、平時からの情報提供同意を得るように啓発に努めます。

### 2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 ①在宅介護支援センター連携会議や在宅介護支援及びケアマネジャー協議会で災害時の避難行動要支援者等の支援について研修等を行った。  
 ②民生・児童委員を対象に地域防災リーダー研修会を開催した。③民生・児童員、福祉施設職員等を対象に、地域防災カシンプジウムin佐賀2021を国、県と共催した。  
 ④「地域における避難支援の手引き」の作成に着手した。

【成果】  
 在宅介護支援センター連携会議等において、防災と福祉の連携について確認ができた。また、地域防災リーダー研修会を開催し、「助けられ上手のすすめ」や「支え合いマップの作成」など、在宅の要配慮者対策の新たな手法を学んだ。さらに、地域防災カシンプジウムでは、①事前準備、②避難訓練の必要性、③地域の連携の必要性について再認識した。

### 3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 災害時における避難行動要支援者を含む要配慮者への具体的な行動計画等を策定する必要がある。

【取り組み方針】  
 引き続き、防災部門と福祉部門が連携を行う。

### 4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
平時からの情報提供同意者数	目標	4,000	4,250	4,500	4,750	5,000	人	5	100%	完了（目標達成）	4.0	介護サービス提供者などと研修等を行ったことで、制度の周知などが促進されている。
	実績	3,502	3,391					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	87%	80%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

### 5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

避難行動要支援者制度の理解を深めるとともに、地域における災害時の課題を整理、対応に向けて話し合いを進めていただきたい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	15	計画書ページ	53ページ
事業名	自主防災組織の設置促進		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	7 災害・緊急時の支援体制の充実
担当課	危機管理防災課

1 事業概要

市民の安全・安心のため、地域内で自主的に活動する自主防災組織の設置促進に努めます。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 ①自主防災組織設置促進及び地域防災力向上に係る防災講話を行った。  
 ②自主防災組織等が実施する防災訓練の支援を行った。  
 【成果】（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、8月以降に実施した回数）  
 ①防災講話 実施回数・・・8回 ②防災訓練 支援回数・・・3回 ③研修会 参加回数・・・3回

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 自主防災組織は地域における自主的な活動であるため、新規の設立に向けては、地域の中にそのような機運や危機意識が十分にあることが欠かせない。しかし、地域をまとめるリーダーの不在や役員のなり手がいないなど、話し合いがすすみにくい地域特有の事情を抱えていることも多く、新規設立数の伸びは鈍化傾向にある。  
 【取り組み方針】  
 できるだけわかりやすい資料を作り、設立の相談に丁寧に応じるとともに、地域の要請による防災講話で成功事例などを紹介しながら、設立の機運を醸成するための取り組みを地道にすすめていきたい。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
自主防災組織設置数	目標	137	73	76	79	82	組織	5	100%	完了（目標達成）	3.0	数値目標は達成しているが、まだ、未設置地区もあるため、引き続き設置促進に係る活動を行ってきたい。
	実績	71	75					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	52%	103%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域の災害時避難行動要支援者や要配慮者のことを把握していただき、万が一の場合に地域でどのように助け合うべきか理解を深めていただきたい。

## 第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	16	計画書ページ	57ページ
事業名	福祉サービス苦情解決制度		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	8 福祉サービスの質と量の充実
担当課	福祉総務課

### 1 事業概要

市が所有する福祉施設での利用者の苦情解決を図るため、各福祉施設に苦情解決責任者、担当者を置き、苦情解決に努めます。  
また、苦情解決を中立かつ公平に行うため、第3者委員による苦情解決処理委員会を設置します。

### 2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

**【取り組み内容】**  
施設ごとに苦情解決責任者、担当者を配置した。

**【成果】**  
社会福祉施設の苦情解決に一早く対応できるよう体制を整備した。また、苦情解決責任者および担当者を中心に普段から利用者の声に耳を傾けるなど、福祉サービスの充実・信頼性の確保に努めた結果、令和2年度の苦情報告件数は0件であった。

### 3 課題や今後の取り組み方針

**【課題】**  
苦情につながる前の環境づくりをさらに強化する必要がある。

**【取り組み方針】**  
各施設から定期的にヒアリング等を行い、ニーズ等の把握に努める。

### 4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
-	目標						-	5	100%	完了（目標達成）	4.0	責任者、担当者を配置し、順調に体制整備が出来ていると考える。
	実績							4	75%	順調に進んでいる		
	達成度							3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

### 5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	保健医療課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
（健康増進計画、食育計画）  
コロナ感染予防のため健康づくり推進協議会並びに食育推進会議等は開催していないため、新たな福祉ニーズの把握等の検討はできなかった。

【成果】  
会議の招集を行っていないため、関係部署との情報共有を図ることができなかった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
関係機関や事業関係者等の意見など広く意見を聴取する必要がある。

【取り組み方針】  
健康増進計画、食育計画を統合し、令和5年度に策定予定。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
健康増進計画及び食育計画策定（統合で策定）	目標	進捗管理	進捗管理	実態調査	最終評価	策定	-	5	100%	完了（目標達成）	3.0	計画策定（見直し）時に実施を検討予定
	実績	実施	実施					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	75%	50%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	子育て支援課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 新型コロナウイルスの影響により、子ども・子育て会議の開催はできなかったが、書面による事業報告により委員から意見聴取をおこなった。

【成果】  
 各事業に関する質問や意見等を踏まえ、現状の課題整理等につなげることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 急速な少子化の進行、児童虐待件数の増加、子どもの貧困問題、障がいのある子どもへの対応や新しい生活様式の影響など、事業の見込み値と実情が大きく乖離しないように、子どもと子育て家庭を取り巻く環境の変化を重視して、対応していく必要がある。

【取り組み方針】  
 令和2年からの5年間の期間の中で、計画の見直しの必要がある場合は、毎年度開催する子ども・子育て会議の中で審議し、修正等していく。  
 また、令和5年度に子育て支援ニーズ調査を実施、その結果を基に令和6年度に市の現状と今後の課題を整理し、次期計画を策定する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
第三期子ども・子育て支援事業計画 (R6策定予定)	目標	第二期策定	見直しの審議	見直しの審議	見直しの審議	実態調査	-
	実績	策定	見直しの審議				
	達成度	100%	75%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	書面によるやり取りだけであったため、踏み込んだ意見は得にくかったものの、単年度の進捗として目標達成はできた。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）



様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
第6期からつ自立支援プラン策定のため、当事者へのアンケート実施、北部地域自立支援協議会への意見聴取、パブリックコメントの実施などを行った。

【成果】  
第6期自立支援プランの策定完了

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
新型コロナウイルスなどの感染症に関する情勢を踏まえ、適宜、計画内容についての見直しの検討が求められる。

【取り組み方針】  
令和5年度、8年度からつ自立支援プラン策定予定（3年ごと）  
令和9年度第3次唐津市障がい者基本計画、策定予定（10年ごと）

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
からつ自立支援プラン策定（唐津市障がい福祉計画・唐津市障がい児福祉計画）策定	目標	—	策定	検証	検証	策定	—
	実績		策定				
	達成度		100%				
—	目標						—
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	令和2年度の取組である「第6期からつ自立支援プラン」の策定については、完了したところであるが、新たな福祉ニーズの把握については、改善の余地がある可能性もあるため、令和2年度としては評価を4.0とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	高齢者支援課・地域包括支援課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
被保険者代表者枠として9名（全26名中9名＝約35%）を計画策定委員会の委員として構成し、介護保険制度におけるサービス利用者（当事者）等の意見が反映されるよう図った。

【成果】  
全4回の策定委員会の開催をととして、当事者の参画及び意見反映の機会を創出することができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
被保険者代表者枠の委員は、普段より介護保険制度に触れる機会が少なく、制度の基礎知識が乏しい方もおられるため、意見を発表しづらい環境であるという意見もあった。

【取り組み方針】  
次期計画編成における策定委員会においては、少数単位での作業部会等を開催するなどして、制度知識の習得及び意見を出しやすい環境整備に努めたい。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
高齢者福祉計画・ 介護保険事業計画策定	目標	調査	策定	検証	調査	策定	-
	実績	調査済	策定済				
	達成度	100%	100%				
	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	「当事者の参画」は達成できたものの、「ニーズの把握」等については、上記のとおり一部課題が残ったため、4.0とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	18	計画書ページ	62ページ
事業名	住宅改修費の助成		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	10 生活環境の整備
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

障がい者や高齢者の住宅における円滑な生活動作などを支援するための小規模な住宅改修に必要な経費への助成を行います。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 県内他市の状況を把握するため、10市の制度要件調査を実施し、他市との比較を行った。  
 また、身体障害者手帳の新規又は再交付時、要件対象者へ制度概要を説明している。

【成果】  
 10市中2市（佐賀市、鳥栖市）が、基準額（20万円→40万円）を拡充しており、その他本市を含む8市は、20万円である。また、助成回数は制度上10市共に、1回限りとなっている。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 下肢障がい・体幹障がいを持つ難病患者など、制度を利用できる対象者（手帳の新規及び再交付者以外）に周知ができていない。

【取り組み方針】  
 病院・保健福祉事務所など関係機関と連携し、身体障害者手帳の新規及び再交付時において、在宅生活を支える住宅改修費助成制度の重要性について、周知に努める。  
 助成回数について、他市の拡充内容（基準額引き上げ）を参考に関係部署と連携し、研究に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
給付件数（障がい者）	目標	5	5	5	5	5	件
	実績	4	3				
	達成度	80%	60%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	手帳交付時の説明において、約2件程度の年度内実施希望者がいたが、新型コロナ関連により次年度以降に申請予定となった。また、助成回数を増加させることはできなかった。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

## 第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	18	計画書ページ	62ページ
事業名	住宅改修費の助成		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	1 0 生活環境の整備
担当課	高齢者支援課

### 1 事業概要

居宅要介護被保険者が、現に居住する住宅について、手すりの取付け、段差の解消、床材の変更、扉の取替え、便器の取替え等の住宅改修を行った場合、介護給付を行うことにより、被保険者が自立した日常生活を営むことができるよう支援する。

### 2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

**【取り組み内容】**  
住宅改修費支給申請書が提出された場合、内容を確認し申請内容が適当であれば、住宅改修費（20万円限度）から利用者負担分を差し引いた額を支給した。

**【成果】**  
介護給付を行うことにより、被保険者が、現に居住する住宅において自立した日常生活を営めるよう支援することができた。

### 3 課題や今後の取り組み方針

**【課題】**  
内容の審査時に、住宅改修として適当と認められる工事の範囲や、工事の適正価格の判断について、専門知識が必要とされる。

**【取り組み方針】**  
内部や他保険者間で情報共有を行い、審査の公平性に努める。  
住宅改修費助成（介護保険）の制度（転居した場合や要介護度が3段階以上上がった場合は、支給限度額がリセットされることなど）について周知を行う。

### 4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
給付件数（高齢者）	目標	336	336	336	336	336	件	5	100%	完了（目標達成）	5.0	単年度目標のほぼ100%を達成することができたため。
	実績	334	335					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	99%	100%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

### 5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	19	計画書ページ	62ページ
事業名	高齢者住宅改修支援事業		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	10 生活環境の整備
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

介護保険の給付対象となる住宅改修について、居宅介護支援などの提供を受けていない要介護（支援）者に対し、住宅改修費の給付申請に必要な書類等を作成する経費への助成を行うとともに、介護支援専門員が住宅改修に関する相談を受け、助言・情報提供・連絡調整等を行うことで、適切な住宅改修を支援します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
介護支援専門員が住宅改修費の給付申請に係る理由書を作成した場合に、作成事業者に謝金を支払った。

【成果】  
居宅介護支援の提供を受けていない要介護（要支援）者においても、住宅改修の申請が容易となった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
介護支援専門員の制度理解

【取り組み方針】  
周知に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
助成件数	目標	48	48	48	48	48	件	5	100%	完了（目標達成）	3.0	相談すべき介護相談員の紹介において課題が残る。
	実績	25	21					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	52%	44%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
-	目標						-	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績							1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度											

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	20	計画書ページ	69ページ
事業名	地域コミュニティ組織等の活動への支援		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 1 地域活動の担い手の確保と育成
担当課	国際交流・地域づくり課

1 事業概要

地域コミュニティ組織の活動やNPO法人等の設立を支援するとともに、その団体が行う自主的かつ主体的な活動を支援します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
NPO法人の設立支援や、地域コミュニティ組織である地域まちづくり会議が行う、地域の課題解決に向けた取組みを支援するため交付金を支出した。

【成果】  
6つのNPO法人の設立を支援し、14地区の地域まちづくり会議の活動を支援した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
NPO法人の設立は順調に推移しているものの、地域まちづくり会議については、交付金以外の財源がないため持続的な運営が課題である。また、会議を構成する委員が一部の者に固定化しており、活動内容の周知も不足している。さらに、地域まちづくり会議に成熟度のバラつきが見られ、効果的な地域活動となっているか疑義のあるものが見受けられる。その他、地域によっては、防災や福祉の分野においても同様の協議体があり、それぞれの活動に参画することが、市民の負担となっているという意見もある。

【取り組み方針】  
交付金や補助金だけでなく自主財源確保を促す事業について検討する。  
地域まちづくり会議の委員について、幅広く人材を募る。また、実施事業の発表会を行う。  
他の自治体の事例を参考にしながら、地域まちづくり会議の計画立案や活動に職員が伴走する仕組みづくりを検討する。  
防災や福祉の分野における同様の協議体と、統合又は連携していくことを検討し、さらに市民の自由な社会貢献活動を促進するため、NPO法人設立への支援を実施する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
NPO法人登録数	目標	42	43	44	45	46	団体
	実績	43	47				
	達成度	102%	109%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.5	NPO法人の設立は順調に推移しているものの、地域まちづくり会議について、上記課題等が見受けられるため3.5とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域づくりを推進するためには、核となる人材の育成が必要不可欠であることを念頭に事業に取り組んでいただきたい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	21	計画書ページ	70ページ
事業名	がんばる地域応援補助金事業 （地域の市民活動の育成を図るソフト事業）		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 1 地域活動の担い手の確保と育成
担当課	国際交流・地域づくり課

1 事業概要

地域の市民活動の育成のため、様々な地域課題の解決を図る取組みに必要な経費への助成を行い、その活動を支援します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
市民の知恵や発想を最大限に引き出し、活発なコミュニケーションを通じて、地域が自らの選択と責任で個性と魅力あるまちづくりを推進する取組みに対し、補助金を支出した。

【成果】  
ソフト事業12件（うち新規4件）、整備事業9件に対し補助金を支出し、市民のつながりを強固にし快適で暮らしやすいまちづくりの実現に寄与した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
補助対象事業の範囲が広く、市の他の補助金と競合する部分がある。  
一度採択を受けた事業は5年間に限り補助を活用することができるが、6年目以降の実施状況を調査していないため、自立できたかどうかの検証ができていない。

【取り組み方針】  
市の他の補助事業と競合する事業は補助対象外とする。（令和4年度実施に向け、市の他の補助事業と整理・統合を進めている。）  
継続の可否について原因を分析するため、補助期間を終えた団体に対する追跡調査の実施を検討する。  
事業が継続して実施できるよう、団体の自立化を促進するため補助率の調整を行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
新規助成事業数	目標	20	20	20	20	20	事業
	実績	14	13				
	達成度	70%	65%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	コロナ禍の中、令和元年度同等の13件の新規事業が実施されたことは評価できる。しかし、上記課題が残っているため3.0とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

コロナ禍により疲弊した地域コミュニティの活性化を図るため、積極的に事業を実施していただきたい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	22	計画書ページ	72ページ
事業名	唐津市ボランティアセンターの運営支援		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 2 福祉ボランティアの推進
担当課	福祉総務課

1 事業概要

唐津市社会福祉協議会に設置している唐津市ボランティアセンターの運営に必要な経費への助成を行い、その活動を支援することで、ボランティア活動への啓発に努めます。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
市民を対象とするボランティア養成講座や学校を対象とするボランティア体験講座等の活動、民間ボランティア団体への活動支援等に対し、補助支援を行なった。

【成果】  
ボランティア活動を通じて様々な方との交流の場が増えたことで、生きがいづくりや健康増進に繋がっている。また、養成講座等により地域を支える担い手づくりが出来ている。R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座等の一部を中止したが、養成講座やボランティア活動等を収めたDVDを介護施設等へ配付することで、ボランティアへの関心や意識を継続させることが出来ている。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、講座や活動のやり方を見直す必要がある。また、ボランティアのマッチングを適切に行う必要がある。災害ボランティアに関する知識を深める必要がある。また、災害時の運営方法を明確に定めることが必要。

【取り組み方針】  
今後、ボランティアのマッチングを適切に行い、必要とされる場所でボランティア活動が活かせるよう、取り組む必要がある。また、災害ボランティア講座や研修等を増やし、災害時にスムーズに対応できるような仕組みづくり、運営マニュアル等の作成、危機管理防災課との連携を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
ボランティア講座数	目標	6	6	7	7	7	講座
	実績	10	6				
	達成度	167%	100%				
ボランティア講座への参加者数	目標	180	180	200	200	200	人
	実績	155	17				
	達成度	86%	9%				
ボランティア連絡協議会 会員数	目標	4,200	4,200	4,230	4,230	4,230	人
	実績	4,200	3,764				
	達成度	100%	90%				

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	コロナ禍において、ボランティア活動や講座等が制限されてきたが、手法を変えて事業を実施されたことは評価される。ただし、災害時のボランティア体制について、課題があるため3.0とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）



様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	23	計画書ページ	72ページ
事業名	市民活動支援センター「ステップ」の運営支援		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 2 福祉ボランティアの推進
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

唐津市社会福祉協議会に設置している市民活動支援センター「ステップ」の運営に必要な経費への助成を行い、その活動を支援します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
共生社会構築の拠点の「総合窓口」として、情報提供や相談など市民の出会いの場を提供した。

【成果】  
団塊の世代が中心となるシニア世代をはじめとした一般市民を対象に、持ち前の技能を活かした活動やボランティア活動へのマッチング、登録した人材情報の活用等を行うことで、市民の新たな活動の場を広げることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
事業内容を多くの人に知ってもらう。

【取り組み方針】  
市報などに利用者などの活動の状況やコメントを掲載するなど周知方法を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
相談件数	目標	100	100	110	110	110	件	5	100%	完了（目標達成）	2.0	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、相談件数、派遣件数が目標を下回ったため評価を2.0とした。
	実績	100	26					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	100%	26%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
ボランティア派遣件数	目標	70	70	75	75	75	件	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	60	16					1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	86%	23%									

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	24	計画書ページ	72ページ
事業名	介護支援ボランティア制度によるボランティア活動の推進		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 2 福祉ボランティアの推進
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

介護支援ボランティア制度の周知に努め、高齢者自身の社会参加活動への参加を促します。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 ボランティア活動を行う者として市に登録を行った唐津市に住む65歳以上の高齢者（要支援または要介護認定者を除く）が、市が指定する介護施設などでレクリエーションやお茶出しなどのボランティア活動を推進した。  
 活動に対してはポイントが付き、ポイントに応じて現金に換金して交付金として市が交付した。

【成果】  
 高齢者の社会参加や地域貢献の機会を広めただけでなく、ボランティア活動者の介護予防につながった。R2年度ボランティア実績（参加者）94人

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 制度の認知度を高めるための啓発やボランティア活動場所の拡大

【取り組み方針】  
 ボランティア活動登録者とボランティア活動受け入れ事業所を拡大させ、介護予防を推進していく。  
 また、介護施設だけではなく地域での介護支援ボランティア実施を検討していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位	点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
ボランティア登録者数	目標	200	210	210	210	210	人	5	100%	完了（目標達成）	3.0	新型コロナウイルス感染拡大に伴いボランティア活動が減少され登録者の数も伸びなかった。
	実績	258	142					4	75%	順調に進んでいる		
	達成度	129%	58%					3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
ボランティア活動指定施設数	目標	120	130	130	130	130	施設	2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
	実績	128	130					1	0%	実施方法も含め改善が必要である		
	達成度	107%	100%									

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

誰でも気軽に参加できるボランティア制度を地域の中でも広げてもらいたい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	25	計画書ページ	74ページ
事業名	地域福祉の啓発		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 3 地域福祉に対する意識の啓発
担当課	福祉総務課

1 事業概要

誰もが共に支え合う地域社会づくりを進めるため、その背景や必要性について、市公式ホームページや広報紙等により市民一人ひとりの意識啓発に取り組みます。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
市ホームページ上にて「地域共生社会」の実現について、その求められる背景や市の取り組みについて啓発するページを引き続き掲載した。  
誰もが共に支え合う地域社会づくりの一助となるフードバンク活動について、令和元年度はふれあい福祉まつりにおいて啓発活動を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となったことから、市報（10月号）やホームページ、FMからつ（1月）での広報に留まった。

【成果】  
「地域共生社会」の実現について、市民への周知を行うことができた。  
フードバンク活動について、市民への周知を行うことは出来たが、さらなる周知を図りたい。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
ホームページ上での情報を充実させる。市報などほかの媒体での意識啓発について検討を行う。

【取り組み方針】  
引き続き、地域福祉の啓発に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.5	市ホームページや市報において、意識啓発に取り組むことができ、取り組みとしては概ね順調に進んでいると評価したが、さらなる周知が必要と感じる。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域共生社会やフードバンク活動の周知をお願いしたい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	26	計画書ページ	74ページ
事業名	認知症サポーター養成講座の開催		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 3 地域福祉に対する意識の啓発
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

認知症に対する理解を深め、認知症の人やその家族を見守り、支える認知症サポーターを増やし、安心して暮らせるまちづくりを目指します。特に、市内の小中学校や高等学校で講座を開催し、若年層に対する認知症への理解を向上させていきます。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
 公民館等で認知症に関する正しい知識の普及、対応の仕方について認知症サポーター養成講座を開催した。（11回、初回受講者196人、2回目以降16人 合計212人）新型コロナウイルス感染症まん延の影響もあり、計画をしても中止になることがあったが、感染対策をとりつつ若年層への講座にも取り組んだ。（4回、受講者95人）

【成果】  
 受講後のアンケート結果によると、「症状を理解できた」と回答した者は95.9%、「対応を学ぶことができた」と回答した者は98.0%に上り、受講者の大半の方が認知症に対する理解を深めることができた。また、認知症の人への対応の仕方について実践したいという感想もあった。R3年3月末時点のサポーター総数6,459人

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
 感染症対策を講じつつ、少人数でも講座を開催し、認知症サポーター養成講座を受講後に地域で活動できる場を作る必要がある。

【取り組み方針】  
 高齢者見守り事業所に対し周知をおこない、講座を開催する。今後も若年層向けの講座の開催を重点的に行う。  
 講座を受講した人にボランティア等の意思の有無を確認し、地域での活動へつなげる。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
講座受講者数	目標	570	626	200	200	200	人
	実績	579	196				
	達成度	102%	31%				
講座実施回数	目標	30	35	20	25	25	回
	実績	25	11				
	達成度	83%	31%				

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	2.0	新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、年度前半は実施ができず、計画を立てるが中止になることが多く、講座自体が実施できない状況だった。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

養成講座を受講した方がさらに知り合い等に講座を広めてもらうことで受講者をさらに増やしてほしい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和2年度）

事業No.	27	計画書ページ	74ページ
事業名	総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の推進		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 3 地域福祉に対する意識の啓発
担当課	学校教育課

1 事業概要

総合的な学習の時間等を活用し、障がい者や高齢者の疑似体験を行うなど、福祉に関する教育に取り組んでいきます。

2 令和2年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】  
各学校で総合的な学習の時間等を活用し、障がい者や高齢者の疑似体験などを行った。  
（例：【虹の松原分校】手話体験 【七山小中】車いす体験、サウンドテーブルテニス体験 【入野小】ポッチャ体験 【大志小】UD体験教室 【長松小】盲導犬講座等）

【成果】  
疑似体験を通じて、障がい者への理解を深めることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】  
体験学習等の実施に係る時間等の確保  
コロナ禍における学習時間の確保が課題となっており、福祉教育を推進するにあたり、取り組み内容についても検討が必要となっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響で高齢者や障がい者の方々のふれあいや、講師の招聘が難しかった。

【取り組み方針】  
各学校への啓発。新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、児童生徒の体験学習の時間を確保する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
実施校数	目標	53	53	53	53	53	校
	実績	37	13				
	達成度	70%	25%				
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	2.0	新型コロナウイルス感染症の影響で、高齢者や外部の講師とふれあう機会を設けることが難しかった。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）